

インタビュー

松阪市認知症初期集中支援チームの活動

認知症の方の早期受診・支援を目的とした「松阪市認知症初期集中支援チーム」が開設されてから3年が経過し、活動の中で様々な課題が見えてきました。日頃からチームと連携しながら認知症の方への支援をしているケアマネジャーや社会福祉士、そしてチーム員である精神保健福祉士や保健師の皆さんに認知症初期集中支援チームの活動、連携についてお話を伺いました。

認知症の方への支援で困難に感じていること、留意していること

認知症の方を支援していく中で、家族や地域の皆さんに認知症について正しく理解をしていただくことの大切さを感じています。認知症は早期に適切な治療を受けることで症状の進行を遅らせることも可能です。しかし、認知症が進行してから相談を受けることが多くあると感じています。家族が症状に気づくのが遅れたり、気づいても誰にも相談できずに症状が進行し、妄想や暴言・暴力などの症状が現れたりした時

に初めて相談に来るといことが多々あります。

妄想や暴言のある認知症の方への対応について、地域の方から相談を受けることがあります。しかし、認知症の方を地域の皆さんだけで見守っていくことは難しいと感じています。そのような時は、認知症初期集中支援チームや多職種が連携して、認知症の方が地域で安心して暮らしていけるように支援します。そして、私たち自身も本人との信頼関係を築くために根気よく、誠意をもって対応しています。また、必要に応じて本人だけでなく家族への支援も行っています。

認知症初期集中支援チームとの連携について

認知症初期集中支援チームは、地域包括支援センターや居宅介護支援事業所などの関係機関からの相談を受けて

支援を行っています。地域包括支援センターやケアマネジャーが支援する中で、本人が受診を拒否したり、独居などで家族の支援が得られづらかったりする場合などは、対応が困難となります。そこで、チーム員が自宅へ訪問して、受診をするための動機付けをしたり、地域の病院や医院と連携をとりながら適切かつ迅速に専門医療機関を受診したりできるように支援しています。本人の安全な暮らしを第一に考え、適切な治療、介護サービスを受けることができるように多職種で連携して支援していくことがこの認知症初期集中支援チームの大きな役割だと思っています。

「ご自身や家族・地域の皆さんから」認知症が気になり始めた」「認知症の方への対応がわからない」などの声がありましたら、一人で悩まず、まずはお近くの地域包括支援センターや担当のケアマネジャーに相談をお願いします。

【問】 高齢者支援課 ☎53-4099

【前列左から】林さん(保健師)※ 山下さん(南勢病院 精神保健福祉士)※ 向井さん(松阪厚生病院 精神保健福祉士)※
【後列左から】山本さん(松阪市第五地域包括支援センター 社会福祉士) 谷川原さん(松阪厚生病院 精神保健福祉士)※ 高村さん(松阪社協松阪支所居宅介護支援事業所 ケアマネジャー)
※印は松阪市認知症初期集中支援チーム員

